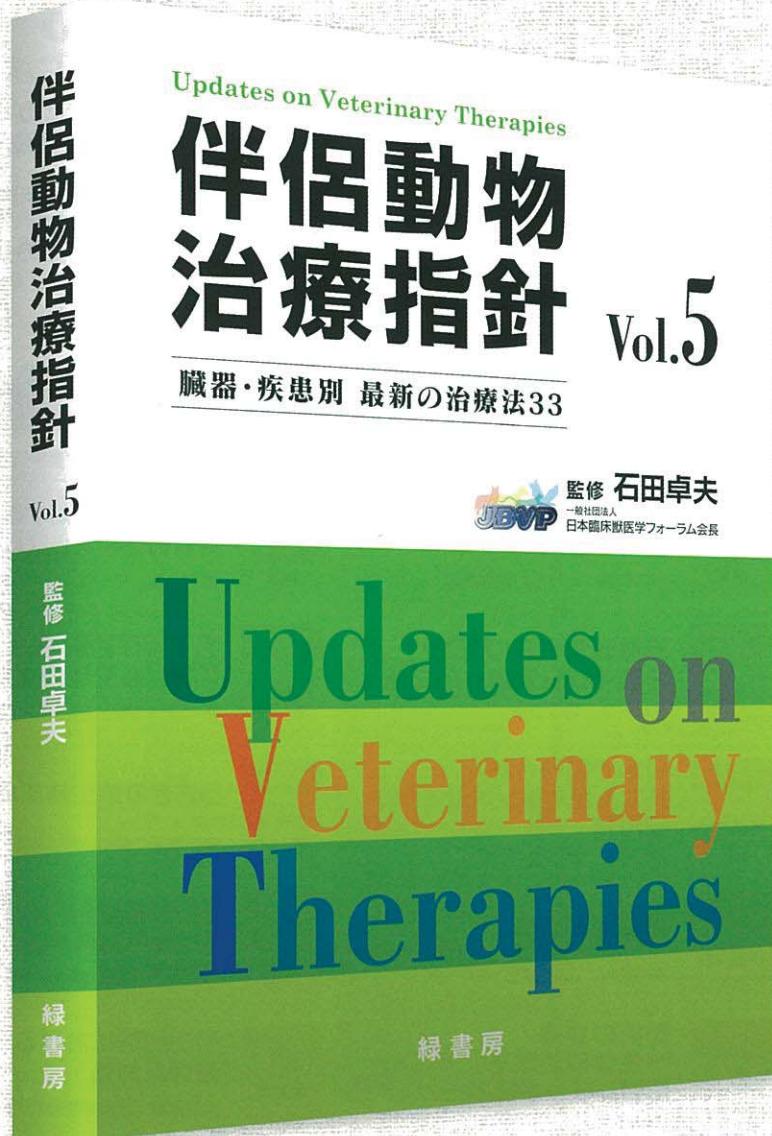


日本の伴侶動物医療における最新の治療ガイドラインを集約した
大好評“治療指針シリーズ”の最新刊 第5巻 ついに登場！

伴侶動物治療指針 Vol.5

Updates on Veterinary Therapies



特価販売キャンペーン

『伴侶動物治療指針Vol.5』定価12,000円（税別）のところ

新刊特価 **11,400円**（税別）

CAP定期購読者
限定特価 **10,800円**（税別）

（キャンペーン期間：2014年11月末日まで）

監修：石田卓夫

（日本臨床獣医学フォーラム会長）

A4判 約450頁 オールカラー

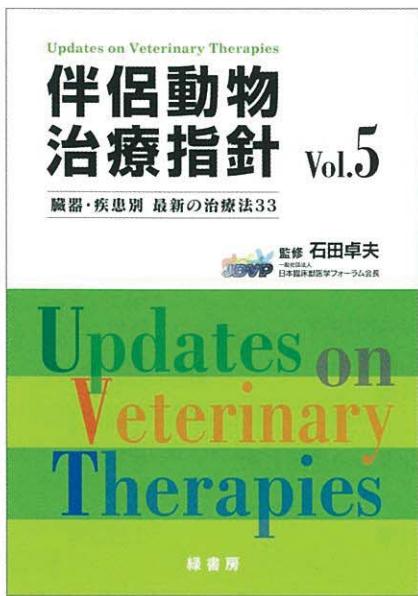
定価：本体12,000円（税別）

『伴侶動物治療指針Vol.1～4』も
特価販売キャンペーン中！

臨床現場でもつとも活用されている
獣医学書のベストセラー、シリーズ最新刊！

伴侶動物治療指針シリーズ

「伴侶動物治療指針Vol.5」発売記念 特価キャンペーン



最新刊！

2014年9月発売

伴侶動物 治療指針 Vol.5

「Vol.5」をご購入の方へ
シリーズVol.1~5の
インデックス
をプレゼント！

A4判 約450頁 定価：本体12,000円（税別）

新刊特価 11,400円（税別）

CAP定期購読者
限定特価

10,800円（税別）

最新刊と一緒に揃えたい！

お得なキャンペーン期間にぜひお求めください



Vol.1

A4判 364頁

定価：本体10,000円（税別）

特価
9,500円（税別）



Vol.3

A4判 432頁

定価：本体10,000円（税別）

特価
9,500円（税別）

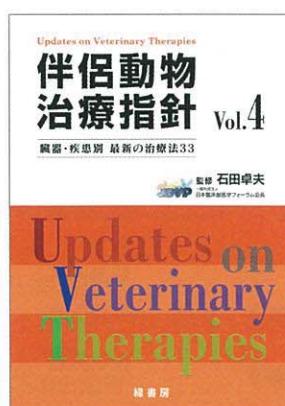


Vol.2

A4判 432頁

定価：本体10,000円（税別）

特価
9,500円（税別）



Vol.4

A4判 440頁

定価：本体11,500円（税別）

特価
10,925円（税別）

《ご注文》別紙の専用注文書で、緑書房もしくは動薬ディーラーへご注文ください。

キャンペーン期間 2014年11月末日まで



株式会社 緑書房

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-8-3 東日本橋グリーンビル
販売部 TEL.03-6833-0560 FAX.03-6833-0566
webショップ <http://www.pet-honpo.com>

実際の診療の流れに沿って、病態と診断、最新の治療、薬の処方例を掲載。
明瞭なイラストで、手技の流れをわかりやすく解説。
日常の診療にすぐに活かすことができる!



Vol.5 注目のコンテンツをクローズアップ

11

ネブライザー療法の理論と治療法

城下幸仁

ネブライザー療法の原理から再考し、有用な活用法について
処方例を含め解説。さらに、近年獣医療に導入され始めてい
る肺内パーカションベンチレータ療法（IPV 療法）や、呼吸器
科で実践している長期在宅ネブライザー療法を紹介する。

10 呼吸器
疾患

ネブライザ療法の理論と治療法

横浜市立動物病院
城下幸仁

アドバイス

ネブライザ療法とは吸入し、経肺および組織に効かせることをいう。従来、鼻腔や口腔の吸入療法はマスク式の吸入器の機械はマスク式の吸入器の機械はマスク式である。小動物では鼻腔吸入が主であるが、馬では鼻腔吸入ができない場合がある。

それに対し、馬では吸入方法によっては鼻腔の吸込よりも鼻腔吸入が可能である。

そのため、馬では鼻腔吸入のためのストローフード吸込装置

装置で呼吸困難の馬が治療可能

今回もマスク式の吸入器を改め

ている際は馬でもマスク式

吸入器を用いて吸入療法を行なっている。

本稿にて、1~2カ月に1回程度の頻度で経呼吸器にて、

（3）長所

セトトマスク式の吸入器の長所は以下のようなものがあ

る。

（4）短所

馬吸入器は人間より馬の呼吸器に對応的に少ない

点であり、よく誤った吸入器の使用となり、正確な

吸入を実現するには訓練が必要である。

（5）参考文献

1. ネブライザの種類、

ネブライザには、鼻腔吸入

式と直首式を発生させる「マ

ジット」式マスク式マスク（図2）は、

管理が容易、そして操作が容易であ

リマツ化できる。経鼻式吸入器

で馬へ一回アスコバムが効果的

や効率で十分な呼吸器の選択とく

の内筒により薬剤が吸引されてしま

う問題が発生する。

マスク式マスク

<div data-bbox="85 31

10

猫の心筋症の臨床的診断法と 内科療法の提案

佐藤浩

心筋症は猫の代表的な心臓病であり、診察する機会も多い症例である。現時点での猫の各種心筋症の分類と診断基準に関して簡単に解説した後に、病態生理学や著者の経験および心臓病専門医の発言等を参考し、治療戦略について解説する。

1

骨折の治療

～生体の治癒を阻害しない治療法～

遠藤薫

骨折の治療で、すべての方法に共通していることは、基本を守ることである。すなわち、生体の治る力を阻害しない、あるいはそれを助長する治療法こそが医療の原点と考える。検査、治療、術後管理の流れにそって、骨折治療について詳しく述べる。

19
整形外科

19

整形外科
-1-

骨折の治療

~生体の治癒を阻害しない治療法~

連載医師監修

述藤 風

アドバイス

専門医の手で「この治療で生きることはあり、それは骨本も生きる」といふ治療法を教える人、もちろんいるといふ。しかし、生体の治癒力を阻害しない

整形外科

はじめに

整形医としての習うべき骨質見解は、開放性外傷に対する対応法であって、小切開の骨質見解が多い。また、小切開や内視鏡、既存創を用いて実現の仕方は、既存創を用いたときに最も骨の問題、薄い皮膚をいかがりやすい問題に直面してしまいますので、何よりも心配なことがあります。そこで、まず、一般的な骨質見解とその骨質見解に対する骨質の問題点を記載する。ただし、骨質見解に対する骨質の問題点を記載するにあたっては、必ずしも骨質の新しい（インプレント）骨質を見せて、「しかし、ここでも問題がある」と目的とした骨質の実効性は測定不能である。骨質見解をしてから骨質を見付けることは、正しいといふ考え方である。またこ

整形外科

図 15 ストレシールディングによる混合子骨

骨折部1年後で骨はよく再生している。その後は骨質を生じて骨質が増加するが、骨質が増加する

動物の家族に伝えるポイント

- 手術の方法とメトリット、ダメジット。
- 骨が100%癒合することは現らないこと。
- 骨癒合が得る確率が高くなること。
- 手術のリスクについて。
- 手術までの間について。
- 手術までの間をどう過ごすかについて。
- 手術までの間の治療費のこと。
- ハーフルの治療費のこと。

VNに指導する時のポイント

- 手術は骨質であることを。
- 侵襲骨質の部位を周囲に動かさないと。
- 侵襲骨質によっては、正常状態を生じて骨質が増加する。
- 手術による骨質は骨質であることを。
- 痛みの改善は骨質を改善すること。
- 骨質の改善度をしゃべらざること。駆動性ランバク質を十数年も見る。
- ソフツキヤドリの鑑別、当院の学識、あるいは骨質を教えること。

高齢の動物への忠告

- 大きな腫瘍を抱えていないことを確認して手術を行っては、必ず手術を許可するかがわかる。
- 手術が進行しても、手術後は徐々に腫瘍を縮むことを確認する。
- 腹腔内腫瘍の場合は、腫瘍の大きさを定期的に測定する。
- 手術後から骨髄炎やPPDなど小細胞癌があるなどの潜在問題を警告する。

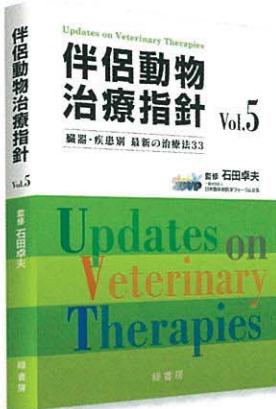
1. Bunn AG, Pegg SP, Sartoris DJ et al: Radiographic features of the spine in dogs. Part I - Thoracic spine. J Small Anim Pract 2000; 41: 21-25.
2. Davis JP, Young C: The canine spine. In: Veterinary Orthopedics and Traumatology. Philadelphia: Lippincott, Raven, 1998.
3. Gammie JC, Choi KJ: An improved experimental canine model using bone marrow mesenchymal stem cells to study the influence of bone marrow mesenchymal stem cells on bone regeneration. J Bone Min Res 2000; 15: 103-108.
4. Gammie JC, Choi KJ: The effect of implanting bone marrow mesenchymal stem cells on bone regeneration in the rat tibia. J Bone Min Res 1998; 13: 1569-1576.

2

尿管閉塞に対する外科的治療 ～猫の尿管結石を中心に～

卷之三

猫の尿管は、同じ体重の犬と比較しても格段に細いため、手術用顕微鏡や拡大鏡を用いる、安全で丁寧な外科的手技の詳細について解説。慎重に行う必要がある周術期管理や、家族へのインフォームドコンセントについても説明する。



伴侶動物治療指針 Vol.5

臓器・疾患別 最新の治療法33

監修：石田卓夫



一般社団法人 日本臨床獣医学フォーラム会長

全編書き下ろしの新規コンテンツ33

1 腫瘍	播種性血管内凝固(DIC)の早期診断と治療的介入 石田卓夫 赤坂動物病院	12 消化器疾患	後天性門脈体循環シャントの病態生理と内科的治療 鳥巣至道 宮崎大学	23 眼科疾患	眼科診断のまとめ～系統的眼科検査～ 安部勝裕 アニマルアイケア東京／安部動物病院
2 腫瘍	犬のリンパ腫のレスキュー治療 細谷謙次 北海道大学	13 消化器疾患	肝臓腫瘍の外科的治療 小出和欣 井笠動物医療センター 小出動物病院	24 歯科疾患	露髓した破損歯の対処法～歯内療法～ 戸田功 とだ動物病院
3 腫瘍	放射線治療が可能な腫瘍疾患 藤田道郎 日本獣医生命科学大学	14 消化器疾患	猫の巨大結腸症の診断・治療アプローチ 進学之 しん動物病院	25 再生医療	脊髄損傷に対する細胞移植による治療 田村勝利 倉敷芸術科学大学／愛甲石田動物病院
4 皮膚疾患	IV型アレルギーによる疾患とその診断治療 増田健一 理研ベンチャー 動物アレルギー検査(株)	15 内分泌疾患	腹膜透析療法の概念と治療 竹内和義 たけうち動物病院	26 腎泌尿器疾患	犬の尿石症に対する内科的治療ならびに予防法 徳本一義 マーク・モーリス研究所
5 皮膚疾患	猫のアレルギー性皮膚炎の治療 関口麻衣子 帝京科学大学	16 神経病学	脳脊髄液検査の意義・方法・解釈・治療への応用 枝村一弥 日本大学	27 腎泌尿器疾患	猫下部尿路疾患における管理の進歩 JP Lulich 他
6 皮膚疾患	舌下免疫療法～犬のアトピー性皮膚炎の新しい治療オプションの現状～ 荒井延明 スペクトラム ラボ ジャパン(株)	17 神経病学	日本で開発された抗てんかん薬ゾニサミドの使用法 渡辺直之 渡辺動物病院	28 エキゾチック	うさぎの抗生素療法 角田睦子 かくだ動物病院
7 感染症	マダニ伝播性疾病とマダニの防御 佐伯英治 サエキベテナリィ・サイエンス	18 免疫疾患	免疫抑制療法 下田哲也 山陽動物医療センター	29 シニアケア	高齢患者の全身麻酔、モニター、外科手術の留意点 今井彩子 麻酔・疼痛管理専門獣医師
8 感染症	犬の口腔内善玉菌を使用した治療 齊藤邦史 斎藤動物病院	19 整形外科	骨折の治療～生体の治癒を阻害しない治療法～ 遠藤薰 遠藤犬猫病院	30 産科学	帝王切開における適切な対処 太田亟慈 犬山動物総合医療センター
9 感染症	合理的な抗菌剤の使用法 栗田吾郎 栗田動物病院	20 整形外科	小侵襲の骨折治療 岸上義弘 岸上獣医科病院	31 行動学	猫にも優しい“キャットフレンドリー”をはじめよう 東山哲 ひがしやま動物病院
10 循環器疾患	猫の心筋症の臨床的診断法と内科療法の提案 佐藤浩 獣医総合診療サポート	21 軟部外科	小腸の基本的な外科治療 生川幹洋 三重動物医療センター なるかわ動物病院	32 救急医療	犬と猫のクリティカルケア・エマージェンシーにおける違いについて 加藤元 ダクタリ動物病院
11 呼吸器疾患	ネブライザー療法の理論と治療法 城下幸仁 相模が丘動物病院	22 軟部外科	尿管閉塞に対する外科的治療～猫の尿管結石を中心に～ 岩井聰美 北里大学	33 獣医療法規	獣医療過誤の予防とその対策について 小宮山典寛 日本ベツ・グループ

※コンテンツタイトルは、変更になる場合があります。

特別な器具を用いずに一般的な動物病院で行うことができる治療法、日本の伴侶動物医療現場でもっとも活用されている治療ガイドライン。いま知りたいコンテンツが多数収録された、全巻手元に揃えて

伴侶動物治療指針 Vol.1 ~

腫瘍	執筆者	Vol.	循環器疾患	執筆者	Vol.
腫瘍化学療法に対する基本的な考え方	石田卓夫	2	先天性心臓病の治療	上地正実	2
猫のリンパ腫の診断と治療	石田卓夫	4	心臓のトータルケアとしての検診アプローチ	佐藤 浩	4
犬と猫のリンパ腫の診断と化学療法の選択	石田卓夫	1	心疾患治療における	上地正実	4
分子標的薬を用いた最新の治療法と その副作用	益子原 誠	3	心臓バイオマーカーの活用	水野壯司	
化学療法を安全に実施するために	入江充洋	4	犬の僧帽弁閉鎖不全症の内科治療	佐藤 浩	3
伴侶動物における化学療法の有害事象と その対処法	細谷謙次	4	僧帽弁閉鎖不全症の犬に対する	鈴木周二	4
四肢の悪性腫瘍による断脚術・断指術	生川幹洋	2	ピモベンダンを用いた治療	福島隆治	
乳腺腫瘍の外科治療	生川幹洋	1	犬と猫の心筋症	上地正実	3
猫における乳腺腫瘍の 状況別内科・外科的アプローチ方法	生川幹洋	3	心臓病に対するピモベンダンの使用方法	佐藤 浩	2
肥満細胞腫の外科治療	生川幹洋	1	危険な不整脈の治療	佐藤 浩	1
難治性腫瘍症例の特殊外科	生川幹洋	2	僧帽弁閉鎖不全の外科治療	上地正実	1
脳腫瘍の放射線療法の実際	藤田道郎	4			
皮膚疾患			呼吸器疾患		
皮膚疾患の臨床的特徴所見： 一目でわかる皮膚病	Peter Ihrke	4	気管支鏡検査に基づいた呼吸器疾患の治療	城下幸仁	4
犬と猫の脱毛症の鑑別診断	Peter Ihrke	2	犬と猫の上部気道疾患の治療	山谷吉樹	2
I型アレルギーの検査	増田健一	4	猫の気管支喘息の治療	藤田道郎	1
犬のアトピー性皮膚炎の治療	荒井延明	1	犬と猫の咳を止めたいときの治療法	藤田道郎	2
犬のアトピー性皮膚炎の最新知見	関口麻衣子	3	鼻腔内腫瘍への外科治療と放射線治療の実際	藤田道郎	3
食物アレルギーの診断と治療	増田健一	3	胸腔内疾患の外科治療	進 学之	3
犬の膿皮症と細菌の過剰増殖：診断と治療	Peter Ihrke	1			
メチシリン耐性 <i>Staphylococcus Pseudintermedius (MRSP)</i> に対する治療法	村山信雄	3	腎泌尿器疾患		
犬と猫における潰瘍性皮膚疾患の鑑別診断	Peter Ihrke	3	膀胱炎の治療	長江秀之	2
猫の粟粒性皮膚炎の治療	関口麻衣子	2	犬と猫における腎結石、 尿路結石の外科的治療法	進 学之	4
犬の落葉状天疱瘡の治療	関口麻衣子	1	猫の慢性腎不全の治療とモニター	石田卓夫	1
犬と猫のマラセチア感染症の治療	Peter Ihrke	1	猫の慢性腎臓病の長期管理	宮川優一 竹村直行	2
皮膚寄生虫疾患の診断と治療	関口麻衣子	4	急性腎不全の診断および腎透析治療	金久保佳代 上地正実	4
感染症			糸球体疾患の組織像に基づく診断と治療	代田欣二	4
培養感受性薬剤の選択と治療	栗田吾郎	2			
バイオフィルム（難治性細菌感染症）への アプローチ	荒井延明	3	消化器疾患		
犬と猫の予防医療について ～2010年版世界小動物獣医師会ワクチンガイドラインをめぐって～	栗田吾郎	3	犬と猫の慢性下痢の治療	Stanley Marks	1
猫伝染性腹膜炎（FIP）の治療	石田卓夫	1	消化器症状を治療する際の薬剤選択	笠次良宣	3
犬と猫の消化管内寄生虫症とその治療	佐伯英治	2	制吐薬の使い方	福島建次郎	4
犬と猫の犬糸状虫感染の 診断・治療・予防に関する新たな情報	佐伯英治	3	ペディオコッカス菌を含むプロバイオティクスの 消化器系およびその他の器官系への作用	JJ Lin 石田卓夫	2
臨床からみた伴侶動物における ジアルジア感染症とその治療法	佐伯英治	4	猫のIBDと消化器型リンパ腫の鑑別	Stanley Marks	3
一般内科			腹腔鏡を用いた治療法	鳥巣至道	3
多飲多尿の鑑別疾患	Edward Feldman	1	先天性門脈体循環シャントの外科的治療と 術後合併症の文献的考察	鳥巣至道	4
			肝性脳症の治療	鳥巣至道	1
			犬と猫の肝胆道系疾患の外科的治療	進 学之	2
			犬と猫の胆囊胆管疾患の内科的治療	鳥巣至道	2
			胆囊粘液囊腫の診断と治療	小出和欣	4
			胆囊疾患の外科的治療	進 学之	1
			猫の脾炎の治療	大村知之	
			脾炎の治療	竹内和義	1

中心に、診療各科のエキスパートが最新知見とともに徹底解説。
おきたいシリーズです。

1 診療科目別 コンテンツ

▼各巻、重複しないコンテンツを収録！

代謝性疾患	執筆者	Vol.
脂質代謝解析結果の治療への応用	荒井延明	2
内分泌疾患		
犬と猫の糖尿病：新しいインスリン療法	石田卓夫	3
犬と猫の糖尿病の治療	Richard Nelson	1
糖尿病性ケトアシドーシスの治療	竹内和義	3
副腎皮質機能亢進症の治療	石田卓夫	1
副腎皮質機能亢進症の診断と治療：最新情報	石田卓夫	2
犬の副腎皮質機能低下症の診断と治療	竹内和義	4
猫の甲状腺機能亢進症の治療	竹内和義	2
犬の甲状腺機能低下症	竹内和義	3
神経疾患		
代表的な脊椎・脊髄疾患の治療	枝村一弥	1
環椎一軸椎不安定症の診断と治療	渡辺直之	2
胸腰部椎間板疾患の外科治療	相川 武	1
脊髓外傷に対する精度の高い治療法	相川 武	2
日常で遭遇しやすい脳疾患の治療	枝村一弥	2
てんかんの治療	渡辺直之	3
小脳、前庭疾患の診断と治療	川崎安亮 松永大道 渡辺直之	4
軟部外科		
縫合糸と縫合糸肉芽腫についての今日の所見	山本剛和	4
腹腔内臓器の生検手技	進 学之	4
耳の外科	生川幹洋	4
皮膚欠損創の外科的閉鎖法	山本剛和	1
整形外科		
肘関節形成不全、異形成(elbow dysplasia)の治療法	相川 武	4
犬でみられる後肢の疾患に対しての外科的アプローチ	柴田光啓 相川 武	3
膝蓋骨脱臼の治療	川田 瞳	1
膝蓋骨脱臼の治療法	岸上義弘	2
骨盤骨折の治療	川田 瞳	2
犬の変形性関節症と治療	奥村正裕	2
骨関節症の治療	林 慶	3
疼痛管理		
犬と猫における周術期のペインコントロール	枝村一弥	3
リハビリテーション		
院内で行なうことができる犬と猫のリハビリテーション	枝村一弥	1
動物病院における総合的な理学リハビリテーション	Jackie Woelz	2
包帯法の基礎と応用	山本剛和	3
褥瘡(床ずれ)の管理	山本剛和	2

眼科疾患	執筆者	Vol.
前眼房疾患の治療と問題点	安部勝裕	1
緑内障の治療	安部勝裕	3
眼瞼疾患の診断と治療	小野 啓	4
犬の角膜疾患の治療	小野 啓	3
猫の角膜疾患の診断と治療	安部勝裕	4
犬の乾性角結膜炎 ～シクロスボリンが効かないときにどうするか？～	David Maggs	2
犬の涙器疾患の治療	小野 啓	2
白内障の治療	安部勝裕	2
歯科疾患		
一般的な歯科治療	戸田 功	1
歯科治療に必要な口腔内X線の基礎	戸田 功	3
歯が欠けた場合の対処法 ～露髓していない破折歯の対処方法～	戸田 功	4
歯科アドバンス「難しい抜歯」の処置法	戸田 功	2
免疫疾患		
免疫介在性血液疾患における人免疫グロブリン療法	山下時明	4
関節液検査の手技と治療への活用方法	枝村一弥	4
再生医療		
獣医療における再生医療 ～自院で再生医療(細胞治療)を行うために～	久保雄昭 岡田邦彦	3
獣医療における再生医療 ～自己活性化リンパ球移入療法(活性化リンパ球療法)～	久保雄昭 岡田邦彦	3
樹状細胞を用いた免疫細胞療法	岡田邦彦 久保雄昭	4
再生医療の現状	岸上義弘	3
再生医療を基本にした生物学的骨折治療	岸上義弘	1
脊髄の再生	岸上義弘	4
救急医療		
エマージェンシー時の心肺蘇生法のガイドライン	佐野忠士	4
救急医療における血液ガス測定	Kate Hopper	1
低血流量性ショックの診断と治療	Kate Hopper	1
行動学		
犬の「家族に対する攻撃行動」の薬物治療	入交眞巳	1
動物の常同障害の診断と治療	入交眞巳	3
エキゾチックアニマル		
ハムスターの腫瘍	霍野晋吉	3
ウサギの不正咬合と胃の鬱滞(毛球症)へのアプローチ・治療	霍野晋吉	2
うさぎの下痢の治療	齊藤邦史	1
フェレットの副腎疾患の治療	霍野晋吉	1
エキゾチックによくある寄生虫病の治療	霍野晋吉	1
シニアケア		
高齢動物のケア	九鬼正己	3
高齢患者の骨折管理と治療	中山正成 田中 宏	4

